III. 内 分 泌 座長 三宅 儀教授(京大), 藤森速水教授(阪大), 西村敏雄教授(京大)

19. 放射性 Aldosterone, Cortisol および Corticosterone による 副腎皮質ホルモン分泌異常の 研究

○近藤俊文 吉野和男 大林誠一 吉見輝也 河野 剛 (京都大学三宅内科)

われわれは標識 steroids を用いて正常人・各種疾患に おける cortisol, corticosterone および aldosterone の分 泌と代謝について研究し報告してきた. 今回は若干の興 味ある知見をえたので報告する. Cushing 氏症候群では cortolone/cortol比, Allo-THF/THF比, THE/THF 比 はすべて推計学的に有意に減少を示した.一方,甲状腺機 能亢進症ではこれらの比はすべて有意の増加を示した. simple obesity, iatrogenic hypercorticism, hypothyroidism, liver cirrhosis の症例では一定の傾向は認めら れなかった. Allo-THB/THB 比については、Cushing 氏症候群では cortisol の代謝物と同様 Allo-THB/THB は減少した. また, 甲状腺機能亢進症2例中1例では著 明な増加が認められ、逆に甲状腺機能低下症では減少 がみられた. aldosterone 分泌促進物質として angiotensin II が知られているが、その昇圧量を9例に点滴静 注しその中6例において軽度から高度の分泌量の増加を 認めた. 反応を示さなかった 3 例中 2例は正常 control, 他の1例は ascites を伴なう secondary aldosteronism ともいうべきで liver cirrhosis であった. angiotensin II の非昇圧量の点滴静注では検討した3例のすべてにおい て aldosterone の分泌増加をきたさなかった.

20. ¹⁴C-Dehydroepiandrosterone (DHA) ³H-DHA-sulfate および DHA ³⁵Ssulfate による DHA および DHAsulfate の分泌と相互転換について

○大迫文麿 辰已 学 吉見輝也 河野 剛 (京都大学三宅内科)

14C-DHA および ³H-DHA-sulfate を同時に正常人・AGS, Cushing's syndrome, hypertension, hyperthyroidism, simple obesity, infectious hepatitis の患者について静注し、Lieberman の方法にしたがって、こ

れら Hormone の分泌と代謝の様相を追求した. AGS では、DHA、DHA-sulfate ともに分泌量が増加の傾向がみられ、とくに遊離型 DHA の増加が著名であった. Cushings' syndrome の 1 例でも、遊離型 DHA の分泌増加がみられた. 正常人の1例に ¹⁴C-DHA、³H-DHA-sulfate および DHA-³⁵S-sulfate の 3 種類の isotope を同時に静注し、DHA-³⁵S-sulfate の血中減衰曲線が³H-DHA-sulfate の減衰曲線よりも、急峻であり、³H-DHA-sulfate を遊離型 DHA に由来する ¹⁴C-DHA-sulfate の減衰曲線は、一定時間以後は、平行線を示した. このことは、遊離型 DHA と DHA-sulfate の間の相互転換が行なわれて、体内では、平衝状態にあることを示しているものと思われる.

21. 正常者および各種甲状腺疾患の ¹³¹I 甲状腺摂取率について

木下文雄 安田三弥 桐生恭好 荒井寿朗 (都立大久保病院)

われわれは10年以上前に ¹⁸¹I 甲状腺摂取率について多くの報告をしたが、その後測定器および測定法も著しく 進歩し、その成績を再検討し発表することは意義あることと考え、最近3年間の正常者および各種甲状腺疾患の 患者についてその成績を報告した。

- ① 測定法は medical spectrometer を用い、364±30KeV, flat field collimator, B-filter, 距離30cm, 時間は全例3,6,24時間後に測定した。なお患者にはすべて1~2週間前に食餌,薬物に関する詳しい注意表を渡した。
- ② 成績は正常者 300例 1.0~59.0 (21.1), 甲状腺機能亢進症 200例 30.4~97.0 (64.6), びまん性甲状腺腫 152例4.6~91.0 (30.9), 結節性甲状腺腫90例2.0~60.0 (22.0), 悪性甲状腺腫20例4.5~44.5(16.9), 慢甲状腺炎 33例3.4~61.8 (23.9), 亜急性甲状腺腫炎13例0.0~4.0 (1.6), 甲状腺腫炎 5 例9.0~43.5 (25.8)%.
- ③ ¹³¹I 甲状腺摂取率の24時間値が3または6時間値に比し低い症例は、上記症例中正常者22例(7.3%)、亢進症60例(30.0%)、びまん性甲状腺腫12例(7.9%)、結節性甲状腺腫5例(5.5%)にみられたが、正常者22例中18例は24時間値が10%以下の例で、なお食餌の影響が考えられた。